

2016年(平成28年)12月7日(水曜日)

三島駅南再開発に東急系

20年4月ホテル開業予定

三島市と市土地開発公社が所有するJR三島駅南口西側の再開発で、市は六日、広域観光交流拠点を整備する事業者として、東京急行電鉄と子会社の東急ホテルズ(ともに東京都渋谷区)のグループを選んだと発表した。(佐久間博康)

水脈に影響懸念の声も

二〇二〇年四月にホテル取り組む団体からは工事を開業する予定工事の地下水脈への影響で、懸念の駅南口再開を懸念する声が上がった。地元で環境保全に西側の土地は三千四



東急グループが提案したホテルのイメージ図



百平方あり、現在は駐車場になっている。市は近隣民有地を含め再開発を目指していた。だが地権者の合意が得られず断念し、今年五月にホテルを誘致することにした。市の公募に東急グループだけが応募。十一月三十日に提案を審査し決めた。

提案は、地上十六階建て二百室のホテルを整備し、一、二階には地場産品の販売所や飲食店、観光案内ブースが入る。

土地の買収価格は四億八千百万円。来年一月に基本協定を結ぶ。豊岡武土市長は「南口の魅力を高め、都市の品格を上げてくれる」と評した。

東急電鉄広報部の担当者は、三島への進出の理由を「新幹線の停車駅で魅力的な立地。施設を拠点に情報発信することで、伊豆半島

東部を走る伊豆急行などグループの他事業と連携させた展開が期待できる」と説明する。

一一年に隣接の沼津市のホテル事業から撤退しながら、三島市に進出を決めたことに「外国人観光客が増加し、当時から状況は変わった」と話した。

地元のNPO法人「グラウンドワーク三島」専務理事の渡辺豊博さん(六〇)は以前から、工事による地下水汚染の不安を表明してきた。市などは今回、現場の地下水は地下十四層にあるため、掘削の深さを地下三・五層とするなどの対策をとるとしている。渡辺さんは「市民の声が反映されることなく業者が決まり、市の進め方が乱暴に感じる。地下水への影響はやってみたいと分らない部分もあり心配だ」と話した。